

発行所 (郵便番号100)  
 東京都千代田区丸の内2-4-1  
 丸の内ビルディング781号室  
 社団法人スウェーデン社会研究所  
 Tel (212) 4007・1447  
 編集責任者 堀内六郎  
 印刷所 関東図書株式会社  
 定価200円 (年間購読料参千円)  
 1979年10月25日発行  
 第11巻 第10号  
 (毎月1回25日発行)  
 昭和44年12月23日第3種郵便物認可

# スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol. 11 No. 10

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning  
 (The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)  
 Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

## スウェーデンの選挙一断面

A Phase of Swedish Election '79

所長 平田 富太郎

President Prof. Tomitaro Hirata

スウェーデンでは3年毎の9月の第3日曜が総選挙の日と決まっている。周知のように、社民の44年間にわたる政権も1976年9月の前回の総選挙で崩壊し、中央党、自由党、穏健党などの反社民連合政権が樹立され、中央党の党首 Fälldin が首相となったが、この連合政権も1978年10月にこわれ、Ullsten を首相とする自由党の少数政権がその後を継いで、今回の総選挙を迎えたのである。

私がストックホルムに着いたのは9月13日で投票日の3日前であったが、いずれの党がこの総選挙で勝つか、保守、革新のいずれが優るかの予想は、一方ではなかなか立て難いといわれていたが、他方、保守側の48.4% に対して社民、共合せて48.1%で、その差僅かに0.3%で、これは一議席を争う激戦であろうとのかなりはっきりとした予想もなされていた。

原発問題が来年3月の国民投票に移されたので、日本と異なりスウェーデンでは高負担の引き下げという減税問題が選挙の政策争点の中心であった。財政支出をみると、40%福祉関係、20%教育関係、10%国防関係という状態で、福祉関係は確かに高率であるが、しかし保守系が「福祉見直し」にかかわる減税を説いても、福祉の後退は事実上大変むずかしいことで、この点も争点としてはぼやけていた。日本と比べて人口は13対1、経済規模は10対1であるが、財政支出では5対1と比較的大きく、したがって高負担となっているが、それかといって今すぐ低負担に方向転換できるかというに至難のこのようであった。とくに今日まで福祉関係のような Public Sector への介入率高く、財政支出面における公的支出率が高くなって

おり、これをこの選挙を契機として簡単に変更できるかという、そうはいかない事情におかれているようであった。

今回の選挙で社民党はこれまで主張していた例の「労働者投資基金」については余り積極的に選挙民にアピールすることもなく、また何をどのように減税するかについての論議もきめ手を欠いているようであった。このような中で30%もあるとみられていた浮動票が何れに傾くかも矛盾を許さないものともいわれていた。

修正比例代表制下のこの度の選挙は各党の得票率に応じて議席が割り当てられたので、穏健党73、中央党64、自由党38の保守側175議席に対し、社民党154、共産党20の革新側174議席という結果に終わった。紙数の都合上選挙運動風景などについては触れ得ないが、総選挙の結果が判明したのは投票日より4日後の私がストックホルムの空港を日本へ向って飛び立つ20日の朝であった。これは海外にいるスウェーデン人の投票の到着を待たされたというが、なんとも落ちついたものであったことは、きわめて印象深いものがある。

### 目次

- スウェーデンの選挙一断面……………平田富太郎…1
- スウェーデンにおける平田所長訪問先……………2
- スウェーデンからの選挙速報……………永山 泰彦…3
- スウェーデンの選挙ポスターの色々……………小野寺 信…4

#### ノルデンシヨルド記念特集

- ノルデンシヨルド北氷洋周航百周年  
記念行事について……………徳永 英二…5
- ノルデンシヨルド日本書籍コレクション概説  
……………三木 宮彦…7

# スウェーデンにおける平田所長訪問先

## Visiting List of Persons Prof. Hirata Sweden

前号でご紹介しました通り、平田富太郎当研究所所長はスウェーデン大使館の招待により、9月13日より約1週間スウェーデンで各方面の方々に面会されました。その概要を下記にご紹介いたします。

Cooradinator at the Swedish Institute: Mr Peter Tejler

Accommodation: Park Hotel

Interpreter: Mrs Mizuko Stocklassa

Thursday, September 13 Arrival at Arlanda at 08.40.

Mr Peter Tejler to meet Prof. Hirata at Arlanda

Dinner given by H.E. Masahisa Takigawa, Ambassador of Japan

Attendants: Mr Shozo Matsushita, Counsellor, Japanese Embassy

Mr Tatsuo Matsue, First Secretary, Japanese Embassy

Mr Arne Berglund, Vice-Chairman, Sweden-Japan Foundation (SJF)

Prof. Teruo Nishimura, and Mr and Mrs Makoto Onodera

Friday, September 14

Sightseeing: Mrs Stocklassa to meet Prof. Hirata at the Hotel

Luncheon given by the Ministry for Foreign Affairs at Operakällaren

“The Blue Room”

Host: Mr Jan Eliasson, Director, Information Division

Attendants: Prof. Staffan Helmfrid, President, Stockholm University

Mrs Ingegerd Grundstedt, Head of Division, Scholarships and Grants,  
The Swedish Institute

Mr Ulf Åkerblom, Secretary General, SJF

Saturday, September 15 and Sunday, September 16 At his own disposal

Monday, September 17

Luncheon given by the Swedish Institute at “Victoria” in Kungsträdgården

Host: Mr Nils-Gustav Hildeman, Head of the Department for Education and Research

Attendants: Mr Arne Berglund, Mr Peter Tejler and Secretary to Mr N.G. Hildeman

Svenska Arbetsgivareföreningen (SAF) - Swedish Employers' Confederation

Meeting with Mrs Birgitta Sandtsrön-Eriksson, Information and Public Relation

Department, and Mr Johan von Holten, Finance and Administration Department

Landsorganisationen (LO) - Swedish Confederation of Trade Unions

Meeting with Mr Erik Karlsson, International Secretary

Tuesday, September 18

Departure from hotel with Mrs Stocklassa. Train from Stockholm to Uppsala

Uppsala University

Meeting with Prof. Nils Elvander, Department of Government, Prof. Ulf

Himmelstrand, Department of Sociology, and Dr Hans Modig, Director of Studies,

Uppsala University

Sightseeing, and Travel back to Stockholm

Wednesday, September 19

Socialstyrelsen - National Board of Health and Welfare

Meeting with Mrs Barbro Ottosson, Alcohol and Narcotic Division,

Meeting with Dr Malcom Tootie, Senior Medical Officer.

Stockholm University

Prof. Staffan Helmfrid, President, Stockholm University

Mr Jonas Engberg, Executive Secretary, The Center for Japan Studies

Sweden-Japan Foundation for Research and Development (SJF)

Meeting with Mr Ulf Åkerblom

Thursday, September 20

Departure from Arlanda by SK 407 for Japan via Copenhagen

## ペール・フリッツォン大使館報道参事官の離任

ペール・フリッツォン駐日スウェーデン大使館報道参事官には、10月末チエコスロバキヤ駐在大使館参事官として転任されることになりました。

ここに、約6年間に亘り当研究所へ示されたご厚意とご援助に対し厚く御礼申し上げますと共に今後のご活躍とご夫妻のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

## スウェーデンからの選挙速報

Election News from Sweden

東海大学教授 永 山 泰 彦

Prof. Yasuhiko Nagayama

前回の総選挙（1976年）で、1932年以来44年間も続いた社民党（Sveriges Socialdemokratiska Arbetarepartiet）が政権を失ってから、今回の総選挙（9月16日）の結果は、国際的に注目されていた。しかし、社民党の得票率はあまり伸びず、結局非社会主義政党（スウェーデンでは、*bourgeois* と呼ばれている）と社会民主党プラス共産党（Vänsterpartiet Kommunisterna = Vpk）の議席差は、わずか1議席になり、結果的には5分5分の引分けに終わったことになる。

総選挙の結果は、9月19日（水）の夜の公式の発表によると、穏健党連合：保守党（Moderata Samlingspartiet）が73議席、中央党（Centerpartiet）が64議席、自由党（Folkpartiet）が38議席で、非社会主義側は計175議席となり、社会民主党（154議席）、と共産党（20議席）の革新側の174議席を1議席上回った。なお、スウェーデンの共産党（Vpk）はユーロコミュニズム系に入り、毛沢東系の共産党APKと分裂しており、APKは得票率0.2%で、4%条項から議員は出せない。

総選挙の翌日の9月17日の中間発表では、社民プラス共産党が175議席になるかもしれないとみられていた。その後、海外在住者の郵便による投票約4万票が最終的な決め手となった。郵便による投票は、今回から行なわれた制度であり、投票日の24日前、つまり1979年8月23日から開始され、投票日で締め切られた。しかし、南北アメリカ、アジアなどの在住者からの航空便の所要日数だけ、整理に時間がかかったわけである。

また、国会議員の選挙と同時に進められた、県

会議員と地方自治体（コンミューン）議会議員の選挙（3年毎の改選）には、1976年11月1日からスウェーデンに登録している外国人も投票権を有することになった（国会議員の選挙には参加できない）。その結果、スウェーデンに在住する外国人のうち、22万7,733人が地方政治への参政権を獲得し、県および自治体の議員へ投票できることになった。

### 難航する組閣

今回の国会の選挙における各政党別の得票数（79年9月18日現在の集計値：郵便投票分は含まない）は別表のようになり、1976年の総選挙時の得票数と比較すると、保守内部の政党間の得票にかなりの変動があった。原子力発電問題で失望を買った中央党の得票が大きく減るのは選挙前から予想されていたが、オラ・ウルステンの個人的人気に支えられ、かなり票をのぼすのではないかとみられていた自由党（FP）が減り（-0.5%）、保守党（M）の得票が大きく伸びた（+4.8%）のは意外だとする声もあるが、社民党（S）の伸び悩み（+0.9%）と合わせて考えると、やはり経済的不安がこのような結果を生んだとみられよう。

その結果、組閣は難航を続け、この原稿の最終締め切り日の9月29日現在、まだ決まっていない。得票を大きく伸ばした保守党党首のボーマン（Gösta Bohman）が首相になるのが当然のように思われるが、わずか1議席差の革新側からの協力がまったく得られなくなるのは明らかであり、結局選挙では不振であったが、経済運営で実績のあったオラ・ウルステン（Ola Ullsten）の再任

が有力なのではないかとする声も強い。

### 政党間で差のない公約

新政府が誕生しても、保守・革新の議席差が半々なので、政策運営が難航すると考えるのは常識的な見方である。しかし、今回の総選挙に際しては、各政党が党利党略的な視点から、対立を生む可能性の強い原子力発電問題とか、労働者基金構想の決定を先に延したため、争点の乏しい選挙となった。

減税（限界税率の緩和）と福祉の拡大という点では、共産党を除くどの政党も公約は一致していた。共産党は限界税率の緩和よりも、食料に対する一般消費税（Moms）を廃止し、減税案としては、年収3～8万クローナの層に対して1,000クローナの特別税額控除制度の創設を提案した。

福祉の拡大という点では、産後給手当（児童養育手当）の拡大をどの政党も公約し、社民党は住宅手当の大幅な引上げを公約した。中央党および穏健党は児童養育手当（1日32クローナ 課税対象）を創設し、1980年からは18か月までの幼児、1983年からは3歳までの幼児を対象とするという案を出している。

限界税率の緩和という点では、共産党を除く、全政党の公約が一致したが、自由党案では年5.7～8.5万クローナ、中央党案では年収7.5万クローナまでの所得階層を上限とし、社民党案では、年収7万クローナまでの緩和率を自由党案より大きくし、それ以上の所得階層の緩和率を低くしている。

限界税率というのは、年収が増える部分に課せられる税率のことで、所得とともに税率が大きくなる累進課税制度下では、年収が高くなるに従って税率は高くなる。スウェーデンの税制では、前年度分の所得を基準にし、その増分を限界税率とし、総収入全体の税率（平均税率）と分けている。なお、78年度の勤労者（ブルーカラー）の平均年収は57,300クローナで平均税率は約35%であった。

所得税の減税の見返りとして、自由党と社民党は事業税の増税と生産税の新設案を出しているが、今年度の政府の一般会計予算の赤字が30数パーセントに達する現実では、福祉の拡大も限界に来ているとする声も強い。

最後に、選挙の雑感を述べると、スウェーデンの国会（Riksdag）は1院制で、349議席中310議

席が固定部分で、39議席が補整分になっている。固定部分と補整部分を、各政党毎の投票数で調整する比例代表制になっており、「人間」よりも「党」がものを言う。したがって、候補者個人の顔を売り込む必要がないため、わが国で失望をまねいている金権選挙の土壌が乏しい。反面、どのような候補者が出ているか、外からはなかなか分りにくい。

筆者は、選挙期間中、マルメ、ノルチョピン、リンショピン、ストックホルムと回ったが、スピーカーで奴鳴ったり、夜まで住宅地で候補者の名前を叫んだりする光景には出会わなかった。投票日の前日、ストックホルムやイエテボリで各党首が特別演説をしたり、バトンガールを先頭にパレードをしたりした位であった。投票所はわが国同様、小・中学校が当てられ、夜8時まで投票できる。選挙本部は国税庁（ソルナ）が当てられていた。

主要政党	1979年※		1976年	
	得票数	%	得票数	%
穏健党:保守党 (M)	1,093,948	(20.4)	847,672	(15.6)
中央党 (C)	973,407	(18.2)	1,309,669	(24.1)
自由党 (FP)	569,178	(10.6)	601,556	(11.1)
社会民主党 (S)	2,335,186	(43.6)	2,324,603	(42.7)
左翼共産党 (V PK)	299,301	(5.6)	258,432	(4.8)
共産主義者労働党 (A PK)	10,932	(0.2)	—	
キリスト教民主主義連合 (K DS)	74,894	(1.4)	73,844	(1.4)

※ 79年9月17日の中間集計値

### 新刊の紹介

(10月20日発行)

スウェーデン社会研究所編

## 福祉社会

### スウェーデンの新しい動向

243頁・定価1,600円

スウェーデンの政治  
経済と福祉  
雇用と労使関係  
消費協同組合  
エネルギー政策  
医療・薬事体制  
社会福祉の動向

児童の福祉と文化  
青少年問題  
老人・障害者福祉  
年金制度  
防衛体制  
教育改革  
展 望

会員の方には1,500円でお預ちします。  
郵送の方は送料160円をお添え下さい。

株式会社 成文堂 発行

# スウェーデンの選挙ポスターの色々

Election '79 and Posters

顧問 小野寺 信

Adviser Makoto Onodera

私は妻と共に、去る8月30日から9月26日までスウェーデンに滞在することを得て、今回の総選挙をつぶさに見聞することができた。とりわけ印象的であったのは、各政党のポスターに見られるキャッチ・フレーズで、わが国に大いに参考になると考え、次にあえて紹介してみることとした。



## まず、社民党

三年で沢山だ。国の予算の三分の一は国債である。健全財政に返れ。スウェーデンは社民党政府を必要としている。

今日の社会保障を築き上げたのは、ATP基金だ。将来を保障するのは賃金

者基金だ。スウェーデンは社民党政府を必要とする。

投票はもとに戻って社民党へ。職業と生活安定と公正な社民の手で。

公害はストップ。環境を守れ。スウェーデンは社民党の政府を必要とする。

老人の生活安全を守れ。スウェーデンは社民党政府を必要とする。

社民の赤いバラのマーク付きのポスターの側にはLOのポスターがかかげられているのが目立っている。そのテキストは——投票は昔にかえて社民へ、職業と生活安定と公正は社民の手で。みんなに職を！……等々。社民のポスターの側には、また、党の青年連盟の左翼に好意を持つ人は是非社民へ——の赤いポスターが列んではられている。

穏健党は社民についてポスターが多い。

選択の自由——だが社会主義は除外。税金は安く。自由の未来。良い世の中は穏健党の手で。騒音を少なく。良い学校。犯罪と暴力に対して安全を。

中央党のポスターは余り沢山見当らない。

職場も、サービスも、学校も、社会保護も、自由時間も、環境もみな近所で。エコロジイ——調和の中の人間と自然。居住地に近い職場は町に活気を与え、通勤時間を短縮し、多くの人達の徒歩や自転車通勤を可能にする。

子供により多くの時間を、中央党は老人を大切

にする。——このポスターには幸福そうな年輩の夫婦の顔が画かれている。中央党は与党の持論である原子力発電反対の国民投票に反対している。



国民党のポスターで特に目につくのは、

引きつづき老人の選択の自由を拡大させよ。次の段階は65歳後も働く権利を。ホームドクターで医療はより人間的になる。

左翼共産党のポスターは、より具体的だ。

気狂じみた軍備をストップせよ。軍事費は少く。年金を多く。食料品の附加価値税ストップ。家賃の値上げストップ。生活と職の安全を。原子力発電反対。

一方中共派の共産党は、ソ連の脅威、ソ連よりの攻撃の阻止をうったえている。

キリスト教民主主義党は、——

よりよい社会における安定と共同を。原子力のない環境を。理想をもつ学校を。機能を発揮する家庭を。とうたっていた。

## 保守連立内閣発足

10月9日、スウェーデン国会は、首班に中央党首T・フェルデイン氏を指名し、直ちに組閣がなされたが、それは文字通り保守挙国連立となった。

すなわち、自由党首O・ウルステン氏は外相に、穏健保守党首G・ボーマン氏は経済相に、それぞれ就任した。

## ノルデンショルド北氷洋周航百周年 記念行事について

Japanese-Swedish Joint Symposium for the Centennial  
Celebration of Nordenskiöld's Expedition in the Arctic.

ノルデンショルド記念日瑞シンポジウム実行委員

東京都立大学理学部助手 徳 永 英 二

Assistant Eiji TOKUNAGA

前号では、ノルデンショルドのユーラシア大陸周航とその意味および日本滞在中の出来事や日本の図書のコレクション等について、その概略が西川治準備委員長によって述べられたが、今回は、それから百年後、すなわち、今年行われる記念行事に関して説明したい。

一世紀の歳月は、日瑞両国間の時間距離を驚くほど短くしてしまったし、ノルデンショルド自身が専門とした地理学や鉱物学も著しく発展させた。また、近年、北極や南極に対する各国の学術調査もますます活発なものとなって来ている。このような中であって、ノルデンショルドの偉業と百年前の日瑞文化交流の意味をかみしめると同時に、単に過去を懐古するにとどまらず、未来にむけて一層の学術の発展を期待すべく、今回の記念行事が企画された。行事は、大きくは四つに分けて行われる。以下具体的にその内容と日程を記す。

1. ノルデンショルド北氷洋周航百年記念シンポジウム（於東京地学協会、東京都千代田区二番町12の2、TEL03-261-0809 使用言語：英語、通訳なし）

全体テーマ：「高緯度の自然と民族」

11月19日（月）

10時 開会式

10時45分 記念講演

矢澤大二（東京都立大学教授、日本地理学会会長）：A.E. ノルデンショルドと東京地学協会

ヴァルテル・シット（スウェーデン自然調査所教授、同国人類・地理学協会会長）：北極探検家としての A.E. ノルデンショルド

— 昼 食 —

14時 セッションⅠ 「氷河地形と周氷河環境」

グンナル・ホッペ（ストックホルム大学教授、王立科学アカデミー院長）：最終氷期の北西ヨーロッパおよびヨーロッパ北極地域の氷床域

木下誠一（北海道大学低温科学研究所教授）：ヤクーチャ（シベリア）、パロー（アラスカ）およびマッケンジーデルタ（カナダ）におけるいくつかの典型的な氷久凍土の地形について

グンナル・ホッペ：高緯度地域におけるリモートセンシング

11月20日（火）

10時 セッションⅡ 「北極と南極の科学探検」

ヴァルテル・シット：イメール—80—新スウェーデン北極圏総合学術調査

吉田栄夫（国立極地研究所教授、第20次日本南極観測隊長）：日本の南極観測の一端について

— 昼 食 —

13時30分 セッションⅢ 「極地・亜極地民族」

饗場徳衛（NHK）：ノルデンショルドによる日本の図書のコレクション

エリック・ビルンド（ウメオ大学教授）：フィンランド、ノルウェー、スウェーデン北部のラップ人

藤本 強（東京大学文学部附属北海文化研究常呂実習施設助教授）：プレアイヌと擦文文化

16時 閉会式

2. 公開講演（11月21日（水）於朝日講堂、東京

都千代田区有楽町2-6-1、TEL 03-212-0131、使用言語：日本語、英語、通訳つき)

テーマ：「極地—その自然と民族」

13時 開会式

13時20分 吉田栄夫：シット博士と極地の調査

13時40分 ヴァルテル・シット：スウェーデンの極地探検

—休憩—

15時 エリック・ビルンド：ラップ人の文化と生活

16時 映画

南極第17次隊の記録 (17分)

ラップ人の手芸 (33分)

3. 北海道における講演会・視察 (11月22日(木)~24日(土))

北海道大学での講演、地形、農業開発、工業開発、アイヌ文化などの見学

4. 展示 (11月19日(月)、20日(火)) 於東京地学協会)

東京地学協会よりノルデンショルド教授に贈呈されたメダル、ノルデンショルド教授が収集した日本の図書のコレクションの一部等。

次に来日する三教授の経歴を簡単に紹介しよう(前号で報告されたルンド大学のラップ教授の来日は都合により中止となった)

エリック・ビルンド：1922年生。1956年ウサプラ大学よりPh.D.を授与される。1946年同大学地理学教室講師、助教授等。1965年よりウメオ大学人文地理学・コミュニティ計画学教室教授。1969年~1977年同大学学長、ラップ人社会に関する研究者であるとともに、集落地理の分野で先駆的業績を有する。

グンナル・ホッペ：1914年生。1945年ウプサラ大学よりPh.D.を授与される。1945より同大学講師等。1954年よりストックホルム大学地理学教室教授。1974年~1978年同大学学長。氷河学および第四紀学の世界的権威。

ヴァルテル・シット：1919年生。1958年ストックホルム大学よりPh.D.を授与される。1955年より同大学講師、助教授等。1970年同大学自然地理学教室教授。雪氷学、氷河

学、氷河地形学の世界的権威。また、南北両極地の学術探検ですぐれた業績を残すという点では、世界でも数少ない科学者である。

なお、日本側のシンポジウムおよび講演会での報告者の経歴は割愛させていただくが、いずれの方もそれぞれの分野ですぐれた実績を有する研究者である。シンポジウムでの活発な討論が期待される。

ところで、百年前の日本での歓迎は、その後のスウェーデンの学術探検に少なからぬはげましを与えたようである。例えば、同国の大探検家スヴェン・ヘディンは1908年11月15日地学協会の演壇で、同協会よりノルデンショルドに贈られたメダルにふれ、「……あのメダルはいつもわたしの心をはげますものでありましたが……」と述べている。また、今回このような行事が行えること自体、百年前に努力された方々の心づかいの結実とも言えよう。行事を成功裏におえ、将来へのステップをきざきたいものである。

主催・協賛・後援団体名を掲げる。

〔主催〕 東東地学協会、日本地理学会、スウェーデン人類・地理学協会

〔協賛〕 スウェーデン大使館、日本学士院、日本・スウェーデン協会、スウェーデン社会研究所、日瑞基金

〔後援〕 文部省、日本学術振興会、朝日新聞社

〔実行委員会〕 委員長 矢澤大二、事務局長

西川 治

〔事務局〕 東京大学教養学部人文地理学研究室、〒158 目黒区駒場3-8-1(西川、三上)

TEL 03-467-1171 内線 388



# ノルデンシヨルド日本書籍コレクション概説

About Nordenskiöld's Japanese Book Collection in Stockholm

北欧事情研究家 三 木 宮 彦

Mr. Miyahiko Miki

ニルス・アドルフ・エーリック・ノルデンシヨルド (1832~1901) は、1878年夏からほとんど2年間を費やしたヴェガ号によるユーラシア大陸一周航海の途中、横浜、神戸、長崎にそれぞれ寄港した。その際、彼が購入し、あるいは寄贈されて持ち帰った品々は今、なお、スウェーデン各地に保存されているが、中でも重要なのはストックホルムの王立図書館(1)所蔵の「ノルデンシヨルド日本書籍コレクション」(2)であろう。

このコレクションの成立の経緯については彼自身が紀行「アジアとヨーロッパをめぐるヴェガ号の航海」(3)第18章前半に、おおよそ次のように書いている——「1879年9月2日から10月11日までの横浜滞在中、私は後世の日本研究者の便宜を思って、日本語の書籍23部門1,036点を手に入れた。これは、A・J・Cヘールッから紹介された大口正之に頼み、まず横浜で買めたものだ。横浜中の書店を漁りつくすと、今度は彼を汽車で東京へ派遣した。

ヘールッは当時横浜で製菓業を営んでいたオランダ人で、何彼とノルデンシヨルドの面倒を見てくれた人である。彼の墓は山手の外人墓地にある。大口は横浜近郊出身で、検疫所に勤めていたらしい。フランス語ができる青年という点を見こまれたのだろう。

ノルデンシヨルド自身このコレクションに終生愛着を持ち、王立図書館に寄付した後も自費で折あるごとにヨーロッパ在住の日本人を招いて、整理を依頼している。例えばその一人に、ロンドンの商社員でブリュッセルで法律研究中のサギサカ・ナオシといら者がいるが、彼はロンドンの日本領事館の紹介で1880年9月にノルデンシヨルドへ手紙を出し、手伝う条件を交渉している。九月といえはノルデンシヨルドは、帰国してまだ半年も経っていない時期である。このほか、あの文豪アウグスト・ストリンデルベリも当時は王立図書館に勤める東洋学者の卵で、コレクションの原簿には彼の書きこみも見える。

コレクションは現在地下の貴重書書庫に収納され、ヨーン・ローンストレームの手で整理が進め

られている。1973年に私が訪れた時にはむき出しのままだった図書に、1979年に再訪してみたら、1点ごとに厚紙で保護ケースを作っている最中だった。

コレクションの中の図書は、特に請求すれば閲覧室へ出してきてもらえる。整理システムには、大部分は大口がつけたと思われる原簿番号のほか、ノルデンシヨルドの依頼でフランスの東洋学者ド・ロニーが作ったカタログ(4)による分類番号がある。しかし、どちらもあまり正確でない。＊むしろ、セーレン・エドグレンが目下作成中の新カタログこそ期待できるのだが、その刊行は1980年4月以降になりそうだと聞く。そこで実は、私がこの小文を書くのは、興味をお持ちの方々にとってそれまでのつなぎになればいいと考えてのことなのである。

さて原簿番号1(分類番号では68)は農業書で、島津重豪著「成形図説」中30巻である。農事部1~11が原簿1の1、同12~14、五穀部15~20、菜蔬部21~23が1の2、菜蔬部24~30が1の3と枝番号がついている。書印で鹿兒島藩旧蔵の品と解るが、面白い事実である。原簿2(分類245)は慶応元年6月刷「絵本孫子童観抄」13巻14冊である。刊行者の名が大阪心齋橋伊丹屋善兵衛と江戸日本橋須原屋茂兵衛と二つあるのは、須原屋が伊丹屋から江戸での取次を依頼されたか版木を買ったかしたのだろう。書目によっては、版元と各地売捌者が最初から列挙してあるものもある。次に原簿3(分類184)は天保4年秋大阪心齋橋敦賀屋九兵衛新刻の「百人一首一夕話」である。挿絵は大石真虎だ。

このような内容の飛び方で見ると、どうやら原簿番号は、何点か買い集めたところでおおざっぱに分類してつけていったもののように思われる。例えば地理関係では原簿9~11が各地の名所図会類だが、それは23~24、33~34などにもあるのである。時には一冊そっくり買ったりしたせいも「摂津名所図絵」などは、原簿34の他に原簿34bとして同じものがもう一セットあるのだ。



もっとも、このへんの消息をさぐる資料はないこともない。当時浅草にあり今は本郷にある浅倉屋書店から購入した分については領収書がかなり残っているので、それを照合すればいいのである。また、これには一点ごとの価格も記載してあるので、出版経済史の面白い側面的史料になるのではなかろうか。

ノルデンショルド・コレクションに含まれる点数または冊数は常に問題になるところであるが、その実数は中々算出しにくい。なぜなら、原簿番号は1069までだが、その他にb番号(b-s補遺)、番号がないもの、あるいは原簿1066とはなっているが「日本の色彩版画オークション・カタログ」のように独文で、おまけに1910年刊という、明らかに後世の混入であるもの、さらに重複購入書目も数点あるので、結局1070~75点といったところだろう。また、一書目に対する分冊、絵図1枚、巻物1巻や新聞1枚をすべて1冊と数えれば、原簿1~200ですでに2478冊になったほどだから、おそらく1万5千冊は下るまい。

各書目の出自もそれぞれ異なり、当時の書店の形態からして、新本、古書、刊本、写本に加えて、同じ古書でも個人または団体蔵だけでなく貸本屋の品があり、さらに持主が数名を経ているものもある。善本や美本もあるが、たいいては表紙にインクで原簿番号、書名のローマ字綴、内容説明、刊行年などを書きこんだり消したりしてあるので、美的ないし商業的価値は相当減ってしまっている。この場合に書誌学的知識や愛書家の習慣を求めるのは、まあ無理かも知れないが。

これまでにも述べた通り、収集方針が系統的でないことは、あるいは不当にと言うべきだろうがとにかくこのコレクションの価値を低く見せる。例えば国史類や勅撰と歌集の不揃いぶりは困る。もっとも、購入時の事情を考えれば、それもまた仕方がない。まず時間の余裕もなく、品切れなら注文すればすぐ届くという流通機構でもないのである。従って、このコレクションの面白みは、明治初期の本屋さんの店の棚をそっくりそのままスウェーデンへ移して、当時の店頭にはふつうどんな本があったかを見られる点にある。

コレクション中の貴重書としては、常識的には貞和4年刊の五山版「景德伝燈録」(原簿436)——ちなみに領収書によれば売価1円50銭也——

や西鶴「武道伝来記」(貞享4年)など10点ほどをあげるべきであろうが、これらはむしろ偶然に混入したものにすぎない。私の個人的な感じだが、却って本草や心学の部のように書誌学者が相手にしない場所にこそ珍書発見の可能性があるのではなかろうか。現に寛保3年再刻の「和漢算法大成」(原簿458)から文化2年刊の「開式新法」(原簿475)に至る一連の和算関係書および「世間手代気質」の巻末についている「万宝塵劫記」(原簿854)の中に、ここにしかないものがあると聞いた。

その他、私があげたいものは例えば次の通りである——

- 「三国通覧図説」(原簿137) これは幕府による禁止本であり、本文の部分は筆写されており、付録の地図だけが印刷である。
- 「本州薬名備考」延宝6年(234) 書きこみがあり、オランダ語の単語リストらしい部分もある。
- 「校正海外新話」(564) 阿片戦争の経緯を記した写本。
- 「南海紀聞」(803) 青木定遠の遺著で、10部限定の木造活字本。孫太郎という者のスマトラ、ジャワ、ミンダナオ等の地域での漂流記と見聞記。安永期と思われる。
- 「吾孀免ぐり」(367) 柳亭種彦記で大田南畝と渋江保(抽斎の孫)の蔵書印がある。文化十五年。
- 「怪談御伽婢子」(828) 文政9年補刻本。市川小団次、尾上梅幸らの署名が表紙裏にあり、本惣、堀新、中金堂などの本屋の所有印が一面に押ししてある。中でも「文耕堂」という印の上には、それを消すように新しく「釜亦」と捺印してあるのが印象的である。
- 「東都劇場一覧」(964) および「舞台鏡」(967) 前者は天保~文化期の江戸の、後者は弘化~安政期の大阪の芝居の番付や口上絵などを集めて雑然と綴じあわせたもの。

原簿632には、丸善を通じて集めた日本各地の新聞30種の見本が集めてある。日付は1879(明治12)年9月中の数日。うまく欠号の分でも見つかればしめたものである。原簿番号外にも日本の英字紙の見本が数点あり、これはヴェガ号関係の記事が載っている分だけである。

結論として言えば、ノルデンショルド・コレク

